

平成 30 年度 大阪府立岬高等学校 第 3 回学校運営協議会 議事録

平成 31 年 1 月 25 日 (金) 午後 3 時～

於 岬高等学校 校長室

出席者 【委員】島崎 山路 西本 矢田 齋藤 (欠席者 見先) (敬称略)

【岬高校】校長 教頭 (2 名) 事務長 首席 (保健主事)

進路指導主事 生徒指導主事

国際交流委員長 教育相談委員長

山海人プロジェクト委員長

1. 【学校長挨拶】

近況報告 [今年度行った新しい取り組みについて]

アナログゲームを取り入れた授業 (コミュニケーション活発化)

e-スポーツ甲子園参加 全国 15 位

ドローン 12 機 学校活動や卒業アルバム写真の撮影に活用

SUP 課題のある生徒等への活用、海洋系列での活用

教育相談室の改装 (yogibo ソファ導入)

3 年生女子ベンチプレス日本一⇒国際大会へ出場

テニスコートの用途変更⇒多目的広場へ

来年度より通級指導教室の設置 (発達障がいを対象、柴島、松原について、大手前、岬で始まる)

選抜の状況 非常に厳しい(0.6 倍)南部の高校軒並み定員割れ⇒特色ある学校設定科目等で魅力化を図る

動画資料提示

教育相談室 yogibo ソファ

SUP 夏期休業中の活動の様子

アイドルグループ「たこやきレインボー」のMVを本校にて撮影

2. 【学校経営計画】

めざす学校像 [より具体化]

「寄り添う」教育⇒生徒の個々の状況に応じた支援を行う「寄り添う」教育

「粘り強い」教育⇒多角的なアプローチによる支援を行う「粘り強い」教育

中期的目標

「自尊感情」を育むことに重点を置く

3. 【授業アンケート】

例年、2 回目のアンケートの方が数値が下がる傾向があるが、今年度は横ばいとなった。

授業改善チーム等を行った成果と思われる。

4. 【学校教育自己診断アンケート】

教員の肯定的な意見が増えているが、校内での授業見学には行けていないように見える。

5. 【報告事項】

進路指導部

就職応募状況

1次内定率 76.7%で過去最高

2次応募者 20名、内定 14名、結果待ち 2名

求人状況

大幅増加。

進学状況

大学 3名、短期大学 2名、専門学校 40名、進学予定の未定者 6名

キャリア教育

ジョブチャレンジ（職場見学）

サンヨー航空サービス、大阪ゴルフクラブ、エアポートホテル運営企画、青木松風庵

参加者 39名（1年 19名、2年 20名）

1年進路学習会

2年インターンシップ

全体の進路指導だけではなく、進路希望調査を早めにとり、情報を仕入れ、個別指導をしている。

生徒指導部

報告

- ・登下校及び休憩時間の立ち番指導について
- ・生活指導キャンペーンについて
- ・生徒指導に関する講演について

大麻乱用防止講演（岸和田少年サポートセンター）

総括

- ・スロープでの喫煙
- ・国道の危険な横断等は、教員の立ち番の効果で減っている。
- ・電車の利用マナーに関する苦情があり、ホームルームや集会で指導している。

質疑応答

ネットトラブルはないか？

似た状況が起こることがあり、指導することもある。

SNSの使い方等も注意喚起をした。

総務部

P T A事業報告

概ね当初の計画通り実施された

山海人プロジェクト

自己表現の授業での活動報告

今年度は、2年生だけでなく、3年生も選択授業の中でも活動を行っている。
成果物があり、達成感を得やすいので、生徒の自尊感情を育みやすいと感じる。
地域とも繋がることができ、これからも続けていきたい。

全体活動の報告

- 1年：あたご山でのツツジの植林及び、清掃作業
- 2年：地域清掃・通学路清掃・畑での活動
- 3年：長松海岸清掃活動及び、今年度は海洋系生徒有志によるカヌーによる海上清掃活動も行った。
参加率も例年より改善された。

国際交流委員会

台湾研修の報告

7名の生徒が応募し、作文・面接・英会話により4名を選考した。
10月よりELTと国際交流委員で事前研修を行った。
日本に関するプレゼンテーションを作成し、現地（基隆女子高級中学）で発表した。反応もよく、生徒も達成感・充実感を感じていた。

今後の予定

事後研修として、学んだことをパワーポイントでまとめ、各フロアのモニターで提示する予定。
次年度、基隆女子高級中学が本校を訪問する予定。

教育相談

特別支援コーディネータより報告

- ・高校生活支援カードについて
- ・個別の教育支援について

教育相談委員会より

- ・スクールカウンセラーについて
- ・スクールソーシャルワーカーについて

6. 協議事項

平成 31 年度 学校経営計画

めざす学校像

自尊感情、社会参加⇒社会人として自立、社会生活に向けての目標が必要ではないか
社会参加の意味…社会的自立の前段階としての意味合いとして、社会参加を目標としている
目的意識的なものを入れたい⇒「目的を持って」豊かな生活を送る（文言追加）

中期的な目標

興味・関心・意欲を高めることが課題

「わかる」授業以上に、「おもしろい」授業が必要かもしれない

15 年前に海洋コースを作ったときのように開き直って考えてはどうか

通級指導の先駆的な取り組み⇒アウトドア体験（自発性を育む）

その他

チラシの説明 特色ある学校設定科目（教員が考えた講座）、通級指導について

（近隣の中学校すべて持って回る予定）

昨日の岸和田市立桜台中学校での出前授業（エンパワメントタイム、コミュニケーションを必要とするアナログゲームを利用したクラス作り）の様子を報告。他にも、外でやらしてもらえる機会があれば、お声がけいただきたい

地域連携

- ・小学校への点字教室
- ・人権フォーラムでの中学校との連携

他校種との連携の中で、生徒の自尊感情を育ていけるとよい

中学校との連携も目標に盛り込んでほしい

以上、学校経営計画を承認